

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-015

名前：植村愛

学会名：第60回日本赤十字社医学会総会

開催場所：仙台国際センター

開催期間：2024年10月17日～2024年10月18日

1. 学会参加の感想

今回、10月18日に仙台国際センターで開催された第60回日本赤十字社医学会総会に参加させていただきました。初めて学会に参加し、最近の医療の成果や問題点などを学べる貴重な機会になりました。また、診療放射線技師以外の医療従事者や病院関係者など様々な方が発表をしておられて異なる視点からの話を聞くこともできました。

私は、主に放射線部門と医療安全部門の口演を拝聴しました。放射線部門では、自分がいつも学んでいることや専門科目実験で行っていることの延長線のような題目で、ある程度は理解できましたが、語彙や知識が浅く、理解できなかった部分も多かったので、日頃の学習をさらに深めていく必要があると実感しました。発表者は若い方が多く、様々な年齢の聴衆がいる中で堂々と発表し、質問された時にも少しも焦ることなく質問に答えられていて驚愕しました。そのように答えるためには、自分が行った研究について深く理解しておく必要があると考えました。私は日頃行っている専門科目実験の内容を理解しきれていないと感じたので、より実験の意味を考え取り組んでいきたいと思いました。医療安全部門では、少しの工夫で医療従事者がより働きやすくなり、ミスを減らすことが出来ると学びました。今からでも意識できることは多くあったので、実践していきたいと思いました。

多くの口演を聞く中で、内容はもちろんのこと発表の仕方も学ぶことが多くありました。聴衆がぱっと見てわかりやすいスライドや聞こえやすい声のトーン、スピードなど、真似していきたいです。

口演以外では、放射線技師としては見る機会がほとんど無い最先端の医療ロボット“ダヴィンチ”を近くで見学し、実際に触らせていただきました。レンズを覗いたすぐ先に患者の手術部位があるような詳細に再現された3D立体画像と小さな鉗子が初めて触った人でも簡単に動かせるくらい単純な操作性であることに感銘を受けました。他にも、様々な企業のブースがあり、いつ、どこでもより良い医療が提供出来る発明や商品によって私達の生活は支えられていると感じました。

この学会に参加して、放射線技師の撮る画像が診断・治療の基盤としてとても重要なものであると改めて実感しました。日々の学習や行動を見直し、放射線技師として人々の役に立てよう知識や技術を身につけていけるよう努力し続けます。

本学会参加において、指導教官の平田誠先生には終始ご指導いただき深く御礼申し上げます。また、学会を開催された日本赤十字社医学会、共に学会に参加したゼミ生にも感謝いたします。

2. 現地参加がわかる写真(4枚)

